

**地域科学研究科**

I	教育水準	.....	教育 4-2
II	質の向上度	.....	教育 4-5

## I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 1. 教育の実施体制

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、当該研究科が掲げる教育目的に沿って専攻及び教育研究領域が設置され、教員が配置されている。指導教員一名当たり大学院生数は 1.17 名であり、大学院設置基準で必要とされている数をはるかに上回る体制となっているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教育の目標や内容、教育の状況や活動実態はカリキュラム検討委員会、教務厚生委員会、大学院問題ワーキンググループによって点検、検討されて、各教員にフィードバックされており、FD 研修会も行なわれているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、地域科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、地域科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

### 2. 教育内容

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、教育課程は研究科又は各専攻の共通科目、各専攻の専門科目、選択科目、特別演習等からなり、当該研究科の教育目的に沿って体系的に編成さ

れているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、当該学部の専門科目・基礎科目や他研究科及び他大学院での履修を単位認定し、他大学院との単位互換制度や社会人の長期履修制度を設けており、企業の実務家による「地域学特別講義」も開設しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、地域科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、地域科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

### 3. 教育方法

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、授業は講義と演習からなり、全体として少人数教育や対話型・討論型の授業が行われ、情報機器の活用もされているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、履修計画に対する個別的・組織的な指導によって学生の主体的な学習・研究を促し、十分な学習・研究環境の確保に配慮しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、地域科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、地域科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

#### 4. 学業の成果

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、学位取得率が 56.0%、進学率が 7.1%、就職率が 50.0%とおおむね良好であり、学位取得者の成績は優と良の合計が 97%を超えているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、修了生に対して行われたアンケート調査によれば教育内容、教育方法、達成度及び満足度はおおむね満足という結果であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、地域科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、地域科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

#### 5. 進路・就職の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、平成 19 年度の修了生の就職率は 50.0%、進学率は 7.1%であり、就職先と業種も当該研究科が養成しようとする人材像に適したものとなっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、修了生や就職先企業に対して行なわれたアンケート調査によれば、修了生の学力や社会的な資質及び能力はおおむね高い評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、地域科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、

進路・就職の状況は、地域科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

相応に改善、向上している

[判断理由]

「相応に改善、向上している」と判断された事例が 3 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。